

福岡市消防艇 「飛龍」



一斉放水中

福岡市は、博多港を中心とした海に開かれた街づくりをめざし、ウォーターフロント開発に取り組んでいる。現在、博多港西部地区の「シーサイドももち」では、本年3月17日から9月3日まで6カ月間にわたって「アジア太平洋博覧会」が開催されている。

博多港には、総トン数2万トン以上の船舶が月平均20隻以上も入港しており、今後の港湾整備にともない、その数は、ますます増加することが見込まれる。

玄界灘に面する湾内には2つの石油油槽基地を保有し、湾外には小呂、玄界島の2つの離島がある。本艇は、このような海域を管轄する、福岡市消防局博多消防署水上出張所に所属する総トン数54トンの消防艇である。

基本設計および工程

基本設計および建造監理

(財)日本造船技術センター

建造 墨田川造船株

起工 昭和63年 7月19日

進水 10月25日

就航 平成元年 2月15日

主要目等

(1) 船質および航行区域

船質 耐候性高張力鋼

(耐力35kg/mm²以上、通称HT50)

上部構造：耐食アルミニウム合金

航行区域 沿海区域

船型 V型

救命設備 第4種船

(2) 主要寸法等

長さ(全長) 25.05m

(水線長) 23.50m

最大幅(型) 5.80m

深さ(型) 2.40m

計画満載喫水 1.45m

総トン数 54 トン

(3) 速力等

常備状態 18.56 ノット

試運転状態 21.12 ノット

航続時間 約10時間

(4) 最大搭載人員

船員 10名

その他(1.5hr未満) 20名

(5) 主機関および補機関

主機関

2サイクル高速ディーゼル機関

連続定格

中央機 1,050ps×2,170rpm×1基

両舷機 825ps×2,170rpm×2基

補機関

4サイクル高速ディーゼル機関

定格 70ps×1,800rpm×1基

(6) プロペラ

中央：3翼可変ピッチプロペラ

直径1.080m

両舷：3翼固定プロペラ

直径0.85m×2基

(7) 消防装置

消防ポンプ

容量 13,000/5,000Q/min

揚程 120/150m

基数 2

伸縮放水塔

最大高さ 喫水線上 15.0m

ストローク 4.8m

放水砲

遠隔・手動兼用型

伸縮塔上 5,000Q型 1基

操舵室頂部 5,000Q型 2基

船首甲板上 3,000Q型 2基

放水口(65mm) 14個

救難用吸水口(90mm) 4個

(8) 主要タンク類

燃料タンク 2,700Q×2個

泡原液タンク 2,100Q×2個

油処理剤タンク 1,000Q×1個

謝辞

本艇の基本設計及び建造監理を進めるに当たり、御指導を賜った福岡市関係者各位及び、ご協力いただいた墨田川造船株殿に対し厚く御礼を申し上げます。

なお、写真は、福岡市消防局のパンフレットを使用させて頂きました。